

視察調査・研修会等報告書

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様



令和6年3月8日

議員氏名 (島 朋幸)

研修・視察年月日	令和5年8月28日～29日										
研修会場・視察先	TKPガーデンシティPREMIUM 仙台西口										
研修名・視察目的	地方議員研修会「決算審査直前研修」										
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載											
参加議員(同行者)	なし										
調査概要	元廿日市副市長・野村総合研究所上級コンサルタントであった川本達志氏による執行部としての経験と専門家としての知見をもとにした講義。決算審議を主とし、審議に必要な準備や、財政分析の方法等を、実際の各氏のデータを比較しながら学んだ。 以下は研修の題目である。 <table border="0"> <tr> <td>【決算審議の实地研修】</td> <td>【防災減災特別講座】</td> </tr> <tr> <td>・職員が聞かれたくないこと</td> <td>・自治体の防災に対する役割</td> </tr> <tr> <td>・一目置かれる質疑に必要な準備</td> <td>・過去の災害から学ぶ</td> </tr> <tr> <td>・決算での指摘を予算に生かす</td> <td>・法律や計画から学ぶ</td> </tr> <tr> <td>・財政は比較して分析する</td> <td>・災害時に政治家がなすべきこと</td> </tr> </table>	【決算審議の实地研修】	【防災減災特別講座】	・職員が聞かれたくないこと	・自治体の防災に対する役割	・一目置かれる質疑に必要な準備	・過去の災害から学ぶ	・決算での指摘を予算に生かす	・法律や計画から学ぶ	・財政は比較して分析する	・災害時に政治家がなすべきこと
【決算審議の实地研修】	【防災減災特別講座】										
・職員が聞かれたくないこと	・自治体の防災に対する役割										
・一目置かれる質疑に必要な準備	・過去の災害から学ぶ										
・決算での指摘を予算に生かす	・法律や計画から学ぶ										
・財政は比較して分析する	・災害時に政治家がなすべきこと										
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	決算審査特別委員会に所属しているため、委員会の開催前の事前学習として参加した。 研修では参加した議員それぞれの自治体の決算状況が印刷され配布、ホワイトボードにも数値が記載され、比較しながら講義が行われた。実体験として市民からはよく「小山市は金がない」と言われ、何かにつけ「予算が……」という話もよく聞くが、参加した自治体の中で、小山市は最も財政が健全で余裕があり、講師の川本氏からも称賛を受けた。 誇れることである一方、はたしてそれが市民の「目の前の課題」を解決するためにどの程度使われているだろうかと、見つめ直す機会にもなった。										

視察調査・研修会等報告書

	最も興味深かったのは、「臨時財政対策債」についてであった。 「自治体財政の禁じ手」とも呼ばれる「臨時財政対策債」であるが、小山市も借り入れている。 しかし、川本氏によれば、小山市の財政状況であれば、本当に借り入る必要があったのかというのが疑問であるということであった。 全国的に見ても「臨時財政対策債」への依存は恒常化しているが、赤字公債の発行は、将来世代に負担を先送りすることであり、後に響いてくる悪手であるというのが、同氏の見解であった。 また「臨時財政対策債」の元利償還金はキャッシュとして地方交付税に上乗せされるとは限らず、人口減少などの状況によっては元利償還金相当額を交付税措置したとしても、地方交付税の交付金額は増えることにはならないため「綱渡り」のような制度であるとのことであった。 「国が大丈夫だというから返さなくていい借金」という認識で気軽に借りることは手痛いしっぺ返しを食らう可能性もあるということであった。 他にも、中長期財政計画の必要性など、専門的な内容の講義を受けることができ、非常に意義のある研修であった。 私はまだ当選1年目の若輩であり、決算の核となる部分まで口を出せるような器ではないが、今回のような研修や、書籍、先輩議員や執行部の皆様から学び、正しく決算審査の役割を果たすことのできる議員となれるよう努めていきたい。
--	---